

■提言・1 ロハスアイテムとして会津塗りを再評価する（1）

●国産材の利用を促進する。

日本人は長い間、木をはじめとした森の産物の恩恵を受けて生きてきました。そして、いま地球温暖化防止の切り札として木の製品が注目されています。木は、生長する際にCO2を吸収し、木製品として利用されている限りCO2を蓄積します。また、発電や熱利用のために燃焼させると、当然CO2を排出しますが、それはその木が数十年の間に吸収したCO2です。その木が生まれた森の管理が正常に行われていれば、吸収するCO2の量と燃焼することで排出するCO2の量は釣り合います。これをカーボンニュートラル（＝CO2に関して中立）といいます。つまり、木は、使ってもCO2を増加させることはなく、木製品として活用されればCO2の固定に役立つのです。現在、木から化学物質を抽出して生分解性のプラスチックを作ったり、水素やメタノールを抽出するなど、木という資源の新しい活用法が世界各地で研究されています。



国産材であることをもっとPR。

木づかい運動は、京都議定書で定められた温室効果ガスの削減目標の達成に向けて国産材の利用量を早急に拡大することを目指すものであり、国民一人一人に国産材利用の意義を早急に浸透させ実際の実需に結びつけていく必要があります。そのため普及ツールの一つとして、木づかい運動を象徴するロゴマーク「サンキューグリーンスタイルマーク」が制定されました。

このロゴマークは、国産材を使用した製品、企業や団体等のパンフレットや環境報告書、さらには、普及広報活動に使用できます。ロゴマークを使用することで、他製品との差別化が図られ、併せて環境貢献活動の取組としてのPRが可能になります。

費用は年間21,000円（消費税込）

※但し、初回のみ申請料として別途10,500円（消費税込）が必要です。

●漆器のリペアで（修繕・塗替）リ・ユースをアピール

漆器は、陶器と違い、塗り直しはもちろん、割れてしまった器や皿を新品と同じくらいに再生することができます。期間限定の無償修理サービスや有料による塗り直しサービスなどをこれまで以上に業界全体で推進することによって、気に入ったものを、修繕しながら一生大事に使いたいというニーズに応えます。修繕に力をいれることにより、職人の技術向上にもつながります。

「使えば傷付くのは当たり前、使ってこそ価値がある」

木を素地として使い、漆を塗る漆器づくりは、環境にやさしい無公害のモノづくりなのです。しかし、「扱いが面倒」「かぶれるのではないか?」「価格が高い」等、欠点らしき所ばかりを強調するのではなく、漆器の良さを訴求することが大切です。